



# 学校だより

(9月号) 平成30年8月28日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

## 【学校の教育目標】

◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校

- ・進んで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》目標に向かって協力しよう

## 『暑い夏から、熱い秋へ。そして、実りの秋！』

校長 河井 尚

「今日も暑いですね。」というあいさつが日常的になってしまった夏休みも終わり、2学期が始まりました。暦の上では秋となり、このところ朝晩に秋の兆しを感じられるようになりましたが、まだ暑い日が続きそうです。皆様、どうぞ、ご自愛ください。

さて、野球好きの私にとって甲子園で行われる夏の全国高等学校野球選手権大会はとても楽しみな大会のひとつです。今年の夏の高校野球は、大阪桐蔭高校の史上初となる2度目の春夏連覇で幕を下ろしました。ひたむきで一生懸命な選手たちの諦めないプレーが多くみられ、感動をたくさん味わいました。多くの好プレー



やすばらしい得点シーンを生み出した各チームの厳しい練習や甲子園に来るまでの選手たちの



汗と涙を思うと感動もひとしおです。大阪桐蔭高校西谷監督の「日本の練習をしないと、日本一になれない。」という言葉が思い出されます。

ある先輩から聞いたこんな話があります。けがや故障で思うように練習できなかったかつての甲子園球児のエピソードです。その選手は、チームでエースを任されるべき選手でした。しかし、彼は怪我や故障に悩まされ続けました。右肘、右手人差し指、両ひざなど、中学校時代から合わせると計5回の手術を行ったそうです。当然、レギュラーから外れてしまったり、思うように練習ができなかったり、時には野球をやめようと思った時もあったそうです。そんな時、彼を支えたのが、いつも彼を応援してくれていたおばあちゃんから渡されたメッセージだったそうです。おばあちゃんから彼に送られた押し花の入った額には次のような言葉が添えられていたそうです。「**がんばってもだめな時もある。でも無駄ではない。**」彼は、くじけそうになった時、その言葉を力に変え、5度の手術を乗り越え、ついに甲子園のマウンドに立つことができたのです。

2学期には、運動会を筆頭に5年生の自然の教室、各学年の社会科見学などの行事が予定されています。これらの行事を経験することで、しびらきっ子たちは大きく飛躍できるはずです。運動会では、クラスや赤白チームが一つになることの大変さと成し遂げたときの充実感を味わい、仲間を思いやる心や応援する態度などを学びます。その体験を自分自身の成長、そしてクラスや学校の雰囲気づくりに生かしてほしいと願っています。様々な取組の中で、思うように結果が出ないとき、勉強や練習から逃げ出したくなるときもあるでしょう。でも「やっていることに無駄はない。」今やっていることは「実り」に向けての一步なのです。

「暑い夏から、熱い秋へ。」そして「実りの秋へ！」頑張り！しびらきっ子。